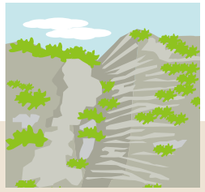
United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization
San'in Kaigan UNESCO Global Geopark

砂浜海岸と岩石海岸の接する場所

駟馳山西（しちやま）コース





山陰海岸ジオパーク散策モデルコース

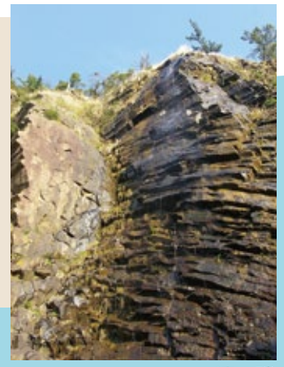
初版：2013.3.28
最終更新日：2016.3.31

美しい自然を守るため、石や植物は観察するだけにしましょう。
危険な場所や立ち入り禁止の場所には入らないようにしてください。
持って帰るのは楽しい思い出と写真、そして地元のおみやげ！！

岩戸（いわど）海岸は、鳥取砂丘の東端に位置し、砂丘地はラッキョウ畑として利用されています。駟馳山は日本海の荒波によって、その北部が侵食された崖（海食崖（かいしょくがい））をもつ岩石海岸を作り出しています。砂浜海岸と岩石海岸が隣り合う、山陰海岸の特徴をよく表している地域です。

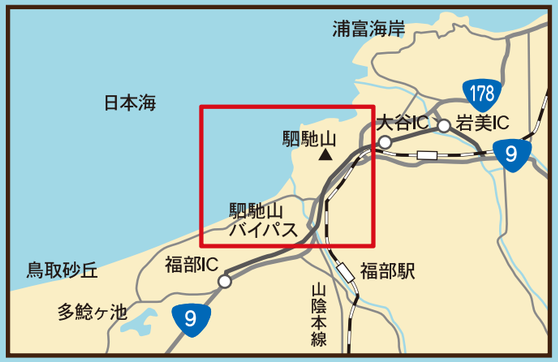
雨の日は滝のような光景が広がる！

駟馳山は日本海に面する山で、その北部には海食崖や波で削られた平らな棚状の地形（波食棚（はしょくだな））が発達しています。特に、滝ヶ磯（たきがいそ）では、幅150m、高さ100mにわたってマグマが駟馳山をつくる岩石を割って入り、冷え固まってできた岩石を見ることができます。この岩石には、見事な柱状の割れ目（柱状節理（ちゅうじょうせつり））が発達しており、雨が降ると、その岩石の上から水が滝のように降ってきて、見事な光景となります。



滝ヶ磯

波食棚







ラッキョウの花

基本コース

スタート ＊時間は徒歩

①いさりび広場
7分 ↓ 約350m
②恵比寿浜展望所
10分 ↓ 約450m
③滝ヶ磯
7分 ↓ 約300m
④展望休憩所
14分 ↓ 約700m
⑤岩屋地蔵
25分 ↓ 約1.3km
⑥ふくべふれあいランド
27分 ↓ 約1.4km
①いさりび広場

総移動時間1時間30分
全行程約4.5km

クイズ1
ラッキョウの収穫時期は、いつ頃でしょうか。
①3月 ②6月 ③11月
（答えは裏面を見てね！）

お問い合わせ：山陰海岸ジオパーク推進協議会 TEL.0796-26-3783 FAX.0796-26-3785 HPアドレス http://sanin-geo.jp/

みどころいっぱい岩戸海岸

①いさりび広場



岩戸漁港に隣接した広場です。漁港にちなんだ船の形をした遊具や、防波堤を利用した木製の遊歩道があります。木製の遊歩道を歩くと、海の上を歩いているような気持ちになります。

②恵比寿浜展望所



岩戸漁港北側の高台にある展望台です。展望台の周囲には、立派な松が生えており、その松の間からラッキョウ畑や鳥取砂丘を眺めることができます。また、眼下には日本海の荒波が馴馳山のふもとを削ってできた波食棚が見られます。

③滝ヶ磯



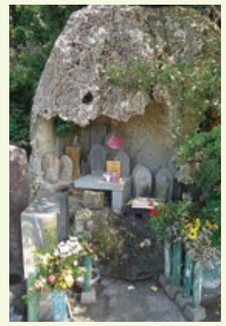
滝ヶ磯では、波浪の侵食により形成された非常に高い断崖（海食崖）が見られます。この崖には、美しい柱状の割れ目（柱状節理）が発達しています。この岩石は、マグマが冷え固まってできた岩石で、周囲の岩石をマグマが突き破った、マグマの通り道です。その幅は150mにも達しています。雨が降ると、この岩石の上から滝のように水が流れ落ち、さらに美しい光景となります。

④展望休憩所



中国自然歩道の滝ヶ磯へ向かう道の分岐点から、急な斜面を登ると展望休憩所が見えてきます。周囲は多くの木々で囲まれていますが、木立の間から日本海と鳥取砂丘が続いている光景を見ることができます。散策モデルコースはここで引き返しますが、この先の中国自然歩道を進むと岩美町の大谷海岸へ通じます。

⑤岩屋地蔵



凝灰岩の転石にできた塩類風化による穴（タフォニ：下段のおすすめを参照）に、お地蔵さんが祭られています。
「崖石尊」として、江戸時代後期の書物「稲葉佳景無駄安留記」の中にも紹介されています。古くから地元の人々に信仰されてきたことが想像されます。

⑥ふくべふれあいランド



「砂丘温泉ふれあい会館」と「ほっとスイミングプール」があります。砂丘温泉の泉質は、カルシウム・ナトリウム－塩化物・硫酸塩泉で、塩分が含まれているので湯冷めしにくいといわれています。2階の展望浴場からは日本海が一望できます。
（問）砂丘温泉ふれあい会館 0857-75-2316
（問）ほっとスイミングプール 0857-74-3712

おすすめ：岩戸海岸の凝灰岩と凝灰角礫岩



岩戸漁港の突堤から北側の馴馳山の山裾を見ると、斜めに傾いた地層が見られます。これらの地層は、日本海が拡大した頃の火山活動によって噴出した火山灰などが堆積してできた地層で、粒の大きさが異なる地層が交互に積み重なっています。

おすすめ：岩戸海岸の水冷自破砕溶岩



岩戸海岸の波食棚の上にある大きな岩の表面には、岩石がひび割れた跡が残っています。この岩石は溶岩が冷え固まったものですが、水中に溶岩が噴出したため、急激に冷えて固まり、激しくひび割れました。このような岩石は水冷自破砕溶岩と呼ばれ、溶岩が水中で固まった証拠となります。大谷海岸にも同様の岩石が見られます。

おすすめ：岩戸海岸のタフォニ



岩戸漁港北側の馴馳山のふもとの岩石表面には、蜂の巣のような穴や大きくえぐられたような穴が多数見られます。これらは「タフォニ」と呼ばれる地形で、岩石の隙間に入り込んだ海水などの塩分が原因で風化し形成されます。

おすすめ：岩戸海岸の波食棚

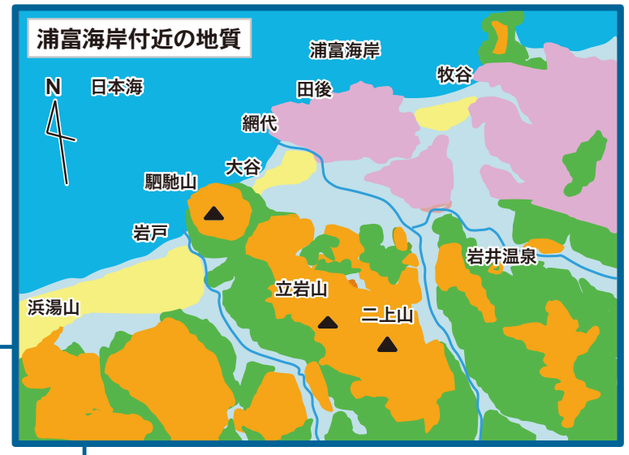


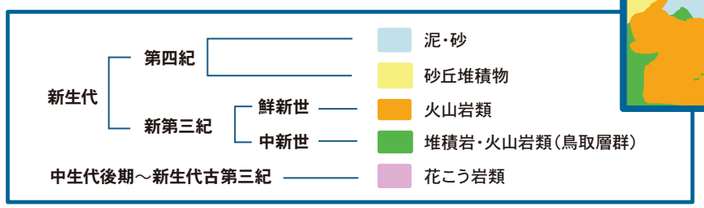
岩戸漁港北側の馴馳山の山すそに見られる棚状の地形は、日本海の荒波によって岩石が侵食されて棚状になったもので、波食棚と呼ばれます。岩石の割れ目（節理）に沿って、侵食が進んでいることがわかります。

ジオコラム①

馴馳山の成り立ち

鳥取県東部に広がるおよそ2,300万年～530万年前（中新世）の地層は、鳥取層群と呼ばれて、日本海が拡大した頃にできた地層です。その後、260万年前頃まで（鮮新世）活発な火山活動があり、馴馳山ではこの時の火山噴出物が鳥取層群をおおって分布しています。この火山噴出物は、南東側の二上山や立岩山から連続していたものですが、国道9号線に沿う断層によって断ち切られ、断層周辺が後に侵食されて現在のような孤立した山の形ができました。





ジオコラム②

神功皇后の伝説

鳥取市福部町には「神功皇后の伝説」が伝わっています。
「鳥取市福部町の浜湯山は、昔は七つの島に囲まれた美しい港でした。その昔、神功皇后が三韓出兵の帰りに浜湯山の港に船を着けると、にわかに産気を催しました。そこで、家来の武内宿禰をはじめとするお供の者が、近くの山に仮御殿を造って奉仕しました。皇后は、七日七夜お籠もりになって、玉のような御子（後の応神天皇）をお生みになりました。このときにお産した山は、七日七夜にちなんで「七夜山」と呼ばれ、それがいつしか「七山」になりました。さらに、この山から名馬が出たことから馬偏を用いた「馴馳山」になったということです。」
また、家来の武内宿禰が都からこの地にやってきて、凶徒を退治したときに幡を立てたと言われており、「幡に因む」というところから旧国名「因幡」が生まれたと伝えられています。
（鳥取県伝説集（上）因幡編／野津 龍 著より）



福部町の海岸から見た馴馳山

クイズの答え ①:②6月 ②:夢シップ

制作：山陰海岸ジオパーク推進協議会